

市民力かわら版

第18号

平成22年7月15日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市秘書政策室
電話: 0287-43-1112
ファクス: 0287-43-2292
Eメール:
yaita@city.yaita.tochigi.jp



「絵本って楽しいなー」 そう思ってもらうんがいちばん

おはなしポットの会

市内各小学校の読み聞かせや、老人施設、船生小学校でのおはなし会など、本に関するさまざまなボランティア活動を意欲的に行っているのが「おはなしポットの会」(佐藤三代子代表・会員約30名)です。



今年国民読書年。矢板市では「子ども読書活動推進計画」を作りましたが、すでにいろいろな団体が長年にわたって子どもの読書活動をサポートしています。

◆お母さんと子どもの居場所「絵本のおへや」
矢板市図書館の1階に「絵本のおへや」というのがあるのをご存じでしょうか？

図書館は静かに本を読むところというイメージがありますが、この部屋だけは別。お母さんと小さな子どもが自由に使え、安心して絵本を読んで過ごせる場所です。小さい子、とくに未就園児のいるお母さんが子どもと一緒に読める場所、子どもと一緒に行ける場所、子どもが読める場所、というイメージです。図書館の中にはこういう部屋

があるということ、子どもたちが本に向かうきっかけの大きき寄与しているのかもしれない。時には、お父さんのひざの上で、お母さんが絵本を見ている間、お母さんは自分の本を選ぶというふうなほほえましい光景もあるそうです。



子どもたちのまなざしはいつも真剣

◆ポットタイムに集合！
この部屋を使って、月に1回、第3土曜日の午後2時から約1時間ほど開かれる「おはなしポット」の会が主催する「ポットタイム」。梅雨に入ったばかり

りの雨模様のお邪魔してみました。ここでの時間は、とにかく楽しんで。絵本って楽しいんだなー。と思ってもらえればそれでいいのだと。見学に来た人が、子どもが寝そべって聞いているのを見て「注意しないのですか？」と質問したそうです。「その子なりに楽しんでますから」とメンバーはいたっておうようです。



◆季節感を大事に
幼児が中心なので季節感を大切に、それを取り入れた本を選びをしています。この日も、「おじさんのかさ」という、この時期にぴったりの大型の絵本を情感たっぷりに。記者もついつい引き込まれ、顔がほころんでしまいました。

お母さんも一緒に、時間も余裕のいい空間を作りました。(0)



雨の音がポロンと鳴る。そんな傘が欲しくなりました。こんな大型の絵本もあります。

「目の前にいる子どもたちが楽しんでるというだけでなく、特に子どもたちが思春期にさしかかったとき、自分で自分を支えていける人間になるように、長いスパンでの本選びをしよう」という協明子先生の言葉を指針に、読む技術だけでなく、質のいい本を読んであげて、読書って面白いなと子どもたちが思えるような機会づくりに貢献するため日々研さんを続けています。